



# 02 変わりゆく 昭和の町田市



## First Year

1町3村が合併し、人口約6万人でスタートした町田市は、その後押し寄せる高度成長期の大型団地の建設により昭和40年代に爆発的に人口が増加していった。市としての基盤づくりのために開発は次々と進められたが、その一方で農業都市の様相や、昔ながらの原風景は影を潜めていった。

駅周辺の大規模開発はJR(旧国鉄)と小田急電鉄の2つの町田駅を繋ぎ、まちの賑わいを創出する一大事業としてこの頃計画されたもの。同時に市民の生活の向上や教育、福祉政策も積極的に進められ、住みよい、そして魅力あるまちへと町田市は着実に歩んでいくこととなる。

1959年(昭和34年) 町田郵便局落成  
市営プール開設  
1960年(昭和35年) 電話自動式に切り替え

1958 昭和33年  
町田市制施行



七夕飾りが飾られた小田急新原町田駅近くの商店街の風景



1965年(昭和40年) 町田市の様子



1967 昭和40年代、次々と団地が建設され、町田市は「日本の団地の街」と言われた。写真は鶴川団地の造成時、そして建設時の様子



1970年(昭和45年) 中町に新市庁舎が竣工

## 10th Year

## 1968 昭和43年

1967年(昭和42年) 大型団地の建設が進む  
東急田園都市線開通  
人口15万人を突破



1966 台風4号による大雨で境川が氾濫した。改修前の境川は川幅が狭く、大きく蛇行していたため、大雨の度に深刻な被害が発生していた



1971 都心百貨店の初出店に、商店街では出店阻止運動も起こったが、オープン当日は1万人を超える人々が訪れた

1970年(昭和45年) 中町に新市庁舎が竣工  
人口20万人を突破

1972年(昭和47年) 全国で初の車いす専用バス「やまゆり号」ができる  
市の木にけやき、花にサルビアが制定される  
大雨で境川が氾濫



1973 町田市や青年会議所などの協力で栄耀りをメインに行われた「23万人の個展」

## 20th Year

## 1978 昭和53年

1977年(昭和52年) 大地沢青少年センターのキャビン完成  
成瀬駅が営業開始



1978 日米ボウル跡に昭和53年10月8日オープンした町田市民ホール



1976 夏の甲子園大会で初出場にして初優勝、全国2893校の頂点に立った桜美林高校。市内は祝祭ムードに包まれ、優勝セールがあちこちで行われた



1979 開業当時の成瀬駅

自由民権運動家でのちに衆議院議員となった村野常右衛門が開いた文武道場「凌霄館」跡地に建てられた資料館。自由民権運動や町田の歴史について展示している



1986年(昭和61年) 自由民権資料館開館

## 30th Year

## 1988 昭和63年



1988 リス園に先立ち、こころみ農園の改装、花の家オープンなど、授産施設が次々と作られた



1981 小学生の選抜チーム「FC町田」が初の全国制覇。後に名古屋グランパスエイトで活躍した飯島寿久は優勝メンバー



1987 芹ヶ谷公園内にある世界でも珍しい版画専門の美術館。名誉市民の版画家・畦地梅太郎も設立に寄与した

## 1958 昭和33年

小学校学級数 195  
人口 60,957人



初代市長  
青山 藤吉郎  
1958~1970年(3期)

合併に尽力、町田市の基礎を築く。主な実績は市として唯一関与した鶴川団地の誘致や市営プールの建設、工場誘致、区画整理、交通安全都市宣言や横浜線複線化など。町田首顔と町田市歌は市制5周年を記念して作ったもの。

## 1968 昭和43年

小学校学級数 334  
人口 134,082人

## 1978 昭和53年

小学校学級数 908  
人口 271,329人

## 第2代市長 大下 勝正 1970~1990年(5期)



人口が急増する中、国鉄原町田駅の移転に代表される町田駅前の再開発や、文化、スポーツなどの大型施設の整備を行う。その一方で、車いす用のバス「やまゆり号」や大賀菟絲館、花の家などの福祉政策にも積極的に取り組んだ。

## 1988 昭和63年

小学校学級数 766  
人口 335,549人